

ご存じですか？ 高次脳機能障害 ～和歌山脳外傷友の会家族会和らぎ～

「高次脳機能障害」はいつ、どこで、誰がなってもおかしくない障がいといわれています。スポーツ事故や交通事故等の脳外傷、脳梗塞や脳出血といった脳卒中、脳梗塞や脳腫瘍、水難事故や心臓発作による低酸素脳症等、日常生活の中で突如当事者になってしまう可能性があり、全国の患者数は約 50 万人（※）ともいわれています。和歌山県で高次脳機能障害のみなさんを支援されている「和歌山脳外傷友の会家族会和らぎ」代表の内藤友香子さんにうかがいました。

（※）国立障害者リハビリテーションセンターウェブサイトより



6月24日に田辺市で初めて開催した講演会には約90名もの参加者が

遠方に暮れた経験から
今から10年前、交通事故で高次脳機能障害になった方のご両親が、子どものために情報を求め、同じような障がいをもった方の家族と情報交換をしたという思いから立ち上げた団体が「和歌山脳外傷友の会家族会和らぎ」です。

内藤さん自身も、突然ご家族がこの障がいを負うことになり、どのようにして対応してゆけばいいのかからず途方に暮れたといいます。そんなとき、病院から家族会の存在を聞き、参加することにしました。当時は「高次脳機能障害」という言葉すらほとんど知られていませんでした。

活動は徐々に地域に
高次脳機能障害は、脳の損傷が主因となつて様々な神経的・心理学的な障がいが発生します。しかし、人によって症状が大きく異なるため、支援がとて難しく、医療や福祉分野における対応も遅れがちになっていました。

これからの展望
医療の進歩により「高次脳機能障害」であると判明する方は年々増えていますが、この障がいについての情報があまりに少ないのが現状といえます。障がいを負う方は、若い世代から高齢者まで様々です。とくに若い世代の当事者の方、家族の方の情報はとても少ないのが現状です。

「和らぎ」では、情報交換を行うために2か月に一度交流会を行っています。また、「人権フェスタ」などのイベントに参加したり、年に一度、「リハビリテーション講習会」を開催するなど、障がいの認知と支援の輪の拡大に努めています。今年から取り組みとして、田辺市で初めて「紀南にも高次脳機能障害の相談支援団体」を立ち上げ、10年、会員も少しずつ増えているとのこと。いつか県内各地に支援団体

「和らぎ」では、情報交換を行うために2か月に一度交流会を行っています。また、「人権フェスタ」などのイベントに参加したり、年に一度、「リハビリテーション講習会」を開催するなど、障がいの認知と支援の輪の拡大に努めています。今年から取り組みとして、田辺市で初めて「紀南にも高次脳機能障害の相談支援団体」を立ち上げ、10年、会員も少しずつ増えているとのこと。いつか県内各地に支援団体

【今後の予定】
高次脳機能障害講習会・リハビリテーション講習会
日 時：9月17日（日）13:30～
場 所：勤労福祉会館プラザホープ（和歌山市）
和歌山脳外傷友の会家族会和らぎ
和歌山市中之島1809 ワークショップフラット内
TEL・FAX 073-423-5838
ブログ <https://blogs.yahoo.co.jp/koujinouyawareagi2007>



みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 和田勇シンポジウム～東京にオリンピックを呼んだ男～
アメリカで移民二世として、渡米した日本選手の支援に尽力。その後1964年東京五輪の招致に関わった、和田勇について取り上げます。
日程 7月15日（土）13:30～15:30
場所 御坊市民文化会館小ホール
内容 講演「祖国を思う心～和田勇さんのオリンピック秘話」(講師：白駒妃登美さん) など
参加費 無料
定員 250名
問い合わせ 御坊市役所総務部企画課 (0738-23-5518)
- 映像と落語による地域づくり講座
商店街映画祭グランプリ受賞作品「替り目」の上映、映像と落語の関係について考えます。
日程 7月21日（金）19:00～20:30
場所 和歌山ビッグ愛9階会議室A
講師 木川剛志さん（和歌山大学観光学部准教授）
参加費 無料（申し込み必要）
問い合わせ・申込み わかやま楽落会（メール nope930@gmail.com、電話 090-2100-8263）
備考 以降も毎月1回、11月までの連続講座。
- 夏休み楽しく学ぶ消費者教室
省エネの学習のほか、LEDを使った行燈づくりを体験します。
日程 7月26日（木）10:00～12:00
場所 和歌山ビッグ愛8階・和歌山県消費生活センター研修室
参加費 1000円（材料費）
対象 小学校高学年
定員 30名（申し込み必要）
締め切り 7月19日
問い合わせ・申込み 和歌山県消費生活センター (073-433-1551)
- アロマキャンドル講座
ガラス細工を埋め込んでジェルタイプのアロマキャンドルを作ります。
日時 7月19日（木）14:00～
場所 和歌山ビッグ愛9階会議室C
参加費 2,000円（材料費等・事前申し込み必要）
申し込み・問い合わせ チェリーの会・いきいき和歌山がんサポート（留守電の場合は折り返し電話があります 090-9050-0858・濱さん）

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」
URL <http://eventboard.shiminjuku.jp/>

国連・持続可能な開発目標を知ろう ⑫

10 人や国の不平等をなくそう

説明責任のある制度づくりを実現する、⑦管理された移民政策による秩序ある移住を促進する、としています。

そのための政策として、⑧世界貿易機関（WTO）協定に従った開発途上国に対する待遇を実施する、⑨開発途上国等への政府開発援助（ODA）などの資金の流入を促進する、⑩移住労働者による送金コストを3%未満に引き下げる、の3点を挙げています。

SDGsでは「誰一人取り残さない」ことが宣言のなかに盛り込まれています。すべての国、すべての人々、すべての社会のあらゆる部分で、SDGsに掲げられている目標が達成されることが望まれており、なかでも「最も遅れているところに第一に手を伸ばす努力をおこなう」としています。

人権擁護や平等かつ差別のない社会が普通である世界を目指しており、人々の成長を阻害する要因を取り払うことと、脆弱な立場にいる人々のニーズが満たされ、社会的包摂ができる環境づくりを目指すことが力強く述べられています。

この目標のなかには「金融」「移民」も挙げられています。発展途上国における経済や社会の発展を阻む「一方的な」経済・財政・貿易措置の運用を強く慎むことが必要としています。

また、移民については、移民を送り出した国と受け入れた国、その経路地となる国の発展に関連することから、難民や避難民であるかどうかに関わらず、人権を尊重し、秩序だった「正規の移住」のための協力を行うことも挙げられています。

島国という地理的条件も影響して、難民・移民の受け入れに消極的という見方もされている日本ですが、今後労働力人口の減少が見込まれるなか、外国人労働者の受け入れ拡大の議論があちこちで出始めています。ただ、受け入れる際には、「安い労働力」としてだけではなく、正当な手続きと待遇をもって受け入れる前提での国民的議論が必要になるでしょう。

また、難民・移民受け入れの考え方にも温度差があります。人道的な観点だけではなく議論が必要になるものと思われる。